

北東アジアの経済統合に参入するモンゴル

モンゴル建設・都市計画省建設計画センター人間居住・地域調査研究部部長
ダバーンヤム・スレンジャヴ

1. 世界の中の北東アジア諸国経済の役割

北東アジア各国のGDPが世界に占める割合は、過去10年間で19.1%から24.1%に増加した。これは、中国の経済ブームによる成長によって、世界でも最も早いペースで行われた。しかし、経済成長のレベルと域内各国の成長の段階は、各国それぞれで異なっている。例えば、モンゴルの一人当たりGDPは、北東アジア諸国の平均と日本に比べると、それぞれ4分の1、10分の1である。さらに、北東アジア域内貿易取引の割合は、北東アジア全体と世界との取引に比べて、まだ小さい。2016年の北東アジアの総貿易額が世界の貿易額に占める割合は24.7%で、一方、北東アジア域内貿易額は、北東アジアの総貿易額の5分の1以下であった(表1、2)。

2. 高まる域内経済統合イニシアチブ

域内にとどまらず、北東アジア各国・地域を含む世界規模で、対外的にも初期レベルにおいても相互作用イニシアチブが高まっている(UN-ESCAP, 2017)。経済成長レベルがそれぞれ異なる北東アジア各国においても、地域開発資源の分析に基づく域内経済統合を進めるメリットがある。他方、以下の開発資源分析をみると、地域経済協力は、その相違こそが域内各国すべてに相互利益をもたらすことが読み取れる(Batbayar, 1994)。

大図們江イニシアチブ(旧図們江地域開発プログラム、TRADP)は、中国、韓国、モンゴル、ロシアを加盟国として、域内の輸送とエネルギーの連結促進に向けた経済の相補性を最大限に利用できる潜在力ある重要な機構である。加盟国から外れた北朝鮮も、朝鮮半島および周辺諸

国の協力促進のための重要な橋渡しとなる可能性を秘めている。政治的対立と投資不足のために、TRADPがその潜在力を実現させるには時間がかかりすぎたが、現在、大図們江イニシアチブを活性化させる新しい取り組みが行われている。

北東アジアのもう1つの長期的政府間プラットフォームである上海協力機構(SCO)

には、北東アジア地域の主要加盟国である中国とロシア、そしてオブザーバーとしてモンゴルが参加している。SCOは主に安全保障問題に焦点を当てているが、中国を除く加盟国はすべて、ロシアを中心とするユーラシア経済共同体に加盟しており、輸送連結性および経済協力の促進にも重要な役割を果たしている。

表1 北東アジア各国・地域の主要成長指標

国名	人口 2016年 (百万人)	面積 2016年 (百万km ²)	GDP(10億ドル)			1人当たりGDP 2016年 (ドル)
			2007	2016	年間成長率 2007/2016(%)	
ロシア	146.8	17,098	1,299.7	1,283.2	-0.1	8,748
ロシア極東	6.2	6,169	52.1	56.9	0.9	5,629
シベリア	19,256	5,145	122.0	108.1	-1.1	9,180
中国	1,373.5	9,563	3,552.2	1,119.1	21.5	8,123
日本	126.7	0.378	4,515.3	4,939.4	0.9	38,894
韓国	51.4	0.100	1,122.7	1,411.2	2.6	27,539
北朝鮮	25.1	0.120	25.0	25.0	0.0	1,000
台湾	23.5	0.036	490.0	529.6	0.8	22,598
モンゴル	3.1	1,564	4,235	11.2	16.4	3,686
香港	7.3	0.003	211.6	320.7	5.2	43,681
北東アジア合計	1,636.056	28.862	11,220.74	19,719.4	7.6	(平均) 12,053
北東アジアが世界に占める割合	22.4	21.5	19.4	26.1	3.4	(世界平均) 10,164

出所:世界銀行、2017年、「World Development Indicators」及び「Russian Federation Federal State Statistics Service」、2018年、www.gks.ru/free_doc/new_site/vvp/vrp98-16.xlsx

表2 北東アジア各国・地域の製品取引が世界に占める割合、2016年

地域	貿易全体		輸出		輸入	
	10億ドル	割合(%)	10億ドル	割合(%)	10億ドル	割合(%)
世界	31,924.9	100.00	15,862.4	100.0	16,062.5	100.0
北東アジア全体	7,896.5	24.7	4,328.7	27.3	3,567.8	22.2
うち、域内貿易	1,396.8	17.7	809.2	18.7	587.6	16.5
世界に占める北東アジア域内貿易		4.4		5.1		3.7

出所:ITC(国際貿易センター)、2017年、「Trade Statistics of World Countries」

表3 開発資源分析

国・地域	鉱物資源	食糧資源	労働力	市場規模	インフラ開発	資本	技術	管理経験
中国	A	S	A	AA	A	A	S	S
ロシア	AA	AA	S	A	A	S	S	S
北朝鮮	A	A	A	A	SS	SS	SS	SS
モンゴル	AA	AA	S	SS	SS	SS	SS	SS
韓国	SS	SS	S	A	A	A	AA	A
日本	SS	SS	SS	AA	AA	AA	AA	AA
台湾	SS	SS	SS	A	AA	A	AA	A
香港	SS	SS	SS	S	AA	A	A	A

AA=非常に豊富、A=豊富、S=乏しい、SS=非常に乏しい

加盟国同士の経済統合を目的とした旧ソビエト連邦の5カ国を含むユーラシア経済共同体を前身とするユーラシア経済連合(EAEU)は、2000年に設立された。2016年に行われたユーラシア経済連合代表と駐ロシアモンゴル大使の会合後に、ユーラシア経済委員会は、モンゴルがユーラシア経済連合への参加を検討中であることを伝えた。さらに、2017年、モンゴル首相は、各国との二国間関係が大幅に成長したことを踏まえ、モンゴルがEAEUとの自由貿易協定を結ぶための共同ワーキンググループを設立する準備があると述べた。

中モロ経済回廊

2016年に中国、モンゴル、ロシアが署名をした中モロ経済回廊の設立計画は、2015年に三カ国が結んだ相互理解のための合意書のフォローアップと捉えられる。この計画は、この三カ国間の貿易促進や関係地域内の経済発展の加速と併せて、世界市場における競争力を高めるための経済回廊の設立を目的としている。

現在の陸・海・空の連結を拡大するより良い輸送ルートの建設によって、中国、モンゴル、ロシア間の協力が実現する。ただし、この事業は輸送回廊に留まらない。この3カ国は、文化交流、資源、農業、環境保全、情報フロー、観光、知的財産、投資などの分野においても協力が可能である。中モロ経済回廊には、国や個人の投資、そしてアジアインフラ投資銀行、BRIC 開発銀行、上海協力機構銀行、シルクロード基金による財政支援が予定されている。

3. 北東アジアの経済統合におけるモンゴルの役割

3.1 貿易はモンゴルの最も基本的な協力

輸出主導型の開発戦略に従う北東アジアのすべての国・地域にとって、貿易は域内経済協力の要である。地域内におけるモンゴルの貿易高は、北朝鮮を除けば、未だに最小である。しかし、GDPにおける域内貿易高に占めるモンゴルの割合は高く、モンゴルの対中・対口貿易の依存度が高いことを示している。

モンゴルの外国為替収入は、石炭、銅、金、鉄鉱石、亜鉛などの天然資源の輸出に大きく依存している。また、域内では唯一、陸に囲まれた国であることから、貿易コストと物流網において不利な立場にある。鉱業ブームが火付け役となり、過去10年間で急激な経済成長を遂げた。そのため、輸出製品の多様化と市場拡大が急務となる。モンゴルとロシアの域内輸出の大半は天然資源である。モンゴルの輸出全体の85%は石炭、銅、金が占める。

鉱業部門以外の主要な輸出項目は、肉、カシミア、羊毛などの農業生産品である。輸入では、日本、韓国、中国など北東アジア諸国からの機械・輸送用機器類、石油が主要品目であり、これらは重機・設備に関連して鉱業ならびに建設用として需要が高い。

とりわけ、陸に囲まれたモンゴルは、他のアジア太平洋地域と比べて、域内における貿易促進のレベルは高い。貿易促進に関する法的文書により、モンゴルの通過

表4 世界・域内貿易における北東アジア諸国の役割、2016年

世界	世界貿易に占める割合(%)			地域の域内貿易の割合(%)					
	輸出	輸入	合計	対北東アジア輸出	対北東アジア輸入	対北東アジア貿易	北東アジアにおける輸出シェア	北東アジアにおける輸入シェア	北東アジアにおける貿易シェア
	100	100	100						
中国	13.2	9.9	11.5	28.2	31.1	29.5	38.1	35.6	36.9
ロシア	1.8	1.1	1.5	18.1	28.4	22.1	3.3	3.7	3.5
日本	4.1	3.8	3.9	37.2	35.6	36.4	15.4	15.5	15.5
韓国	3.1	2.5	2.8	40.1	39.7	39.9	12.8	11.6	12.2
台湾	1.8	1.4	1.6	51.9	44.7	48.7	9.4	7.4	8.4
香港	3.3	3.4	3.3	62.0	65.6	63.9	20.6	25.8	23.1
モンゴル	0.03	0.02	0.03	80.8	73.1	77.7	0.3	0.2	0.2
北朝鮮	0.02	0.02	0.02	88.2	93.1	90.8	0.2	0.2	0.2

出所: ITC(国際貿易センター)、2017年、「Trade Statistics of World Countries」

表5 モンゴルの対北東アジア輸出(2012~2017年)

国	輸出(10億ドル)								
	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	年平均成長率(%) 2012-2016	2016年 前期	2017年 前期	成長率 (%) 2016/2017
中国	4,028.5	3,700.3	5,070.1	3,897.4	3,883.1	-0.9	1,788.7	2,787.8	55.9
ロシア	79.6	61.8	61.6	76.9	55.8	-7.5	25.1	27.1	8.3
韓国	12.3	13.0	13.5	66.6	8.5	-7.8	2.1	2.1	-0.2
北朝鮮	0.1	0.7	0.0	0.7	1.7	418.3	0.0	0.7	-
日本	5.6	10.5	24.5	20.3	14.0	37.6	4.8	4.7	-3.1
香港	31.2	5.3	3.1	11.8	10.5	-16.6	0.9	2.4	165.4
台湾	0.0	0.8	0.2	0.9	8.0	-	1.0	13.4	-
北東アジア	4,157.3	3,792.4	5,172.9	4,074.6	3,981.6	-1.1	1,822.6	2,838.2	55.7
合計	4,384.7	4,269.1	5,774.3	4,669.3	4,916.3	3.0	2,192.5	3,105.8	41.7

出所: 中国税関、2017年、「Statistical Data of Foreign Trade」

表6 モンゴルの対北東アジア輸入(2012~2017年)

国	輸入(10億ドル)								
	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	年平均成長率(%) 2012-2016	2016年 前期	2017年 前期	成長率 (%) 2016/2017
中国	1,825.8	1,785.8	1,729.6	1,360.7	1,040.3	-10.8	494.8	604.6	22.2
ロシア	1,847.4	1,561.9	1,549.3	1,021.0	880.4	-13.1	364.8	532.2	45.9
韓国	467.8	507.4	352.6	258.7	197.9	-14.4	97.9	92.0	-6.0
北朝鮮	0.5	0.7	0.6	0.8	0.4	-6.8	0.2	0.2	-17.6
日本	501.6	444.2	367.8	274.6	330.6	-8.5	142.3	195.9	37.6
香港	35.8	24.3	26.1	20.5	14.3	-15.0	7.3	4.6	-36.9
台湾	11.9	12.5	12.2	8.7	6.6	-11.2	4.0	3.5	-11.3
北東アジア	4,690.7	4,336.7	4,038.2	2,945.1	2,470.4	-11.8	1,111.4	1,433.1	28.9
世界全体	6,738.4	6,357.8	5,236.7	3,797.5	3,358.1	-12.5	1,499.1	1,930.6	28.8

出所: 中国税関、2017年、「Statistical Data of Foreign Trade」

輸送コストは中国やロシア国内の地方運賃表に等しい同レベルにすることができる。モンゴル、中国両政府は、2014年に合意書を交わし、モンゴルの輸出品を中国の天津、大連、錦州を含む6つの港から積み出すことを決めている。また、モンゴル政府は2006年に貿易・輸送促進国家委員会を設立した。その結果、貿易促進改善を目指す「モンゴル輸送」国家プログラムが2008年に承認された。

3.2 金融・投資

北東アジアは、今日、世界における最もダイナミックな成長の原動力の1つとして急速に頭角を現している。その主な牽引力

は、外国直接投資 (FDI) と多国間企業である。現在、外的ショックに端を発した国際収支危機に対しては、中国との二国間通貨スワップ協定が最も有効な手段として機能している。外国の運営する銀行が1つもないのは、この地域内ではモンゴルだけである。株式市場においては、モンゴルエネルギー、モンゴル探掘社などのモンゴル企業が域内の証券取引に上場されている。

3.3 エネルギー協力

北東アジアには、世界有数のエネルギー・地下資源の豊富な国・地域(とりわけ、ロシア極東、モンゴル、中国東北部)

があり、域内エネルギー協力で、これらの地域から必要な地域に資源を送るためのエネルギーインフラに必要な投資を促進できるだろう。特に北東アジアとさらに広いアジア太平洋地域全般で、エネルギー需要が急速に高まっている。現在、モンゴルは国内のエネルギー需要を満たせない電力をロシアと中国から輸入している。国内に製油所がないことから、ガソリン、ディーゼル燃料、ジェット燃料、潤滑油などすべての石油製品を輸入に頼っている。モンゴル向けの石油製品の主な供給国はロシアで、輸入全体の90%を占める (Kang Wu, 2010)。つまり、モンゴルは輸入する石油製品を大きく上回る原油を輸出していることになる。そのため、国内の製油所建設が急務である。北東アジアにおけるモンゴルの役割は重要であり、エネルギー協力に参入する好機である。エネルギー協力は、モンゴルにとってプラスとなるだけでなく、北東アジア全体にとって経済統合及びより良い国際関係構築につながる。モンゴルには、化石燃料の埋蔵量以外にも風力・太陽熱などの豊富な再生可能エネルギー資源がある。将来的な化石燃料ならびに原子力エネルギー需要の減少を見据えた日本の投資家が、モンゴルゴビでのメガエネルギー事業の展開に関心を寄せている。

表7 外国直接投資(単位:千ドル)

国	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年 3月
合計	8,444.7	13,332.7	17,668.4	19,579.3	20,247.0	20,696.3	16,277.5	16,472.0
韓国	76.2	232.0	104.7	0.0	228.0	179.7	159.7	194.3
中国	2,126.4	2,088.4	2,363.1	2,374.0	3,245.5	3,294.3	3,880.5	4,725.7
ロシア	98.3	258.4	222.7	153.8	215.3	177.1	53.2	43.0
台湾	0.0	2.8	0.0	0.0	4.9	6.7	5.4	5.4
香港	88.2	2,792.7	713.6	687.2	1,098.4	1,220.2	797.2	1,237.9
日本	172.8	808.9	151.4	208.7	132.7	498.1	582.8	470.3
北東アジア	2,561.9	6,183.3	3,555.5	3,423.7	4,924.8	5,376.2	5,478.8	6,676.7
北東アジアの割合	30.3	46.4	20.1	17.5	24.3	26.0	33.7	40.5

出所:モンゴル銀行、2017年、「Foreign Direct Investment Statistics of Mongolia」

表8 モンゴルへのインバウンド外国人観光客数2002~2016年(千人)

国	2002	2004	2006	2008	2010	2012	2014	2016	2002/2016 増加率(%)	2011/2016 増加率(%)
世界全体	235.2	305.1	408.5	468.8	557.5	623.8	505.7	471.2	100.4	-24.8
中国	92.7	141.5	164.1	217.1	290.1	361.5	258.4	185.8	100.6	-46.4
ロシア	71.4	55.6	83.6	111.0	125.5	86.6	75.5	87.7	22.8	-16.5
韓国	14.5	26.8	55.9	43.8	42.6	45.5	47.1	59.5	309.4	32.8
日本	13.7	13.2	20.1	15.0	14.3	17.6	18.9	20.6	50.0	34.1
台湾	0.6	1.3	1.5	1.4	1.2	2.3	2.4	3.8	538.2	97.8
香港	0.4	0.8	0.6	0.4	0.8	1.9	2.0	1.6	336.9	-16.0
北朝鮮	0.2	0.4	2.9	0.4	1.1	1.5	1.5	1.2	396.7	-16.7
北東アジア全体	193.5	239.4	328.7	389.1	475.6	517.0	405.8	360.1	86.1	-30.4
全体における北東アジアの割合	82.3	78.5	80.5	83.0	85.3	82.9	80.3	76.4		

出所:モンゴル国家統計局、2017年、「Tourism Statistical Data」

表9 モンゴルのアウトバウンド客数、2007~2016年

国際港	2007	2010	2013	2014	2015	2016	2007/2016 増加率(%)
合計	1446.9	1847.4	2176.2	2181.7	2444.2	2723.3	88.2
中国境界陸上港	944.0	1252.6	451.1	1476.3	1471.0	1664.8	76.4
ロシア境界陸上港	253.5	304.6	303.8	300.5	559.9	624.5	146.3
チンギスハーン国際空港	246.2	287.8	420.7	404.3	413.3	434.0	76.3

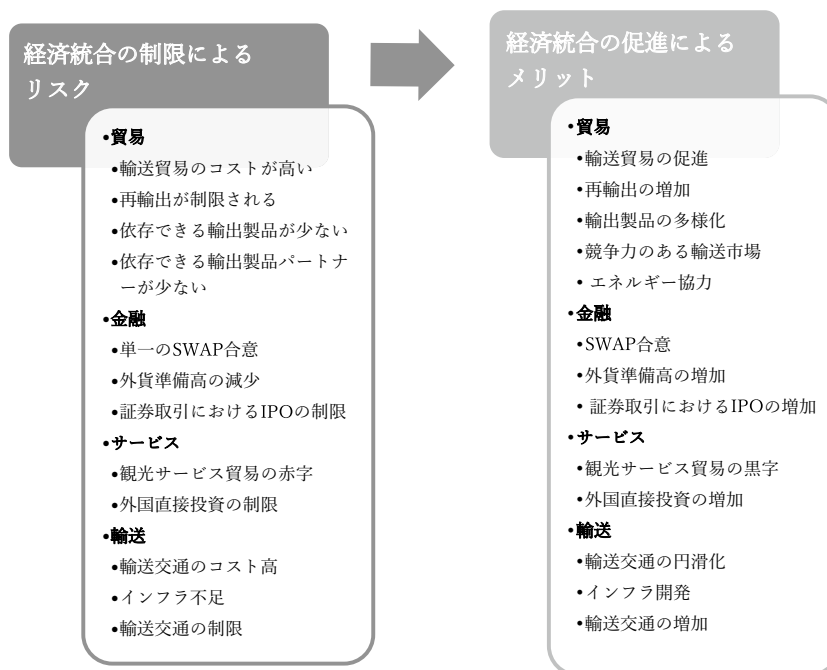
出所:モンゴル国家統計局、2017年、「Tourism Statistical Data」

3.4 観光

国際的に製品取引量が低迷する中で、サービス取引が過去4年間増加している。とりわけ北東アジア地域では、観光、輸送、金融などのサービス部門の貿易高が急増している。モンゴルの観光部門では、アウトバウンドとインバウンドの観光客数が、この10年間で大幅に伸びている。例えば、韓国、日本、台湾からの観光客数は、過去5年間で33~98%の成長を見せた。

しかし、モンゴルの観光支出は、収入を上回っている。例えば、モンゴルのアウトバウンド客数は、過去10年で2倍に増えている。

モンゴルが北東アジア経済関係に統合されれば、モンゴル経済にとって次のような様々なメリットがある。



4. まとめ

モンゴルは、1か国からの輸入に対する過度な依存を減らすために、輸出市場ならびに生産・サービスの輸出を多様化しなければならない。そのためには、近隣諸国との緊密な協力が、モンゴルの貿易効率と競争力を大幅に改善し、「陸に囲まれた国」から「陸でつながった」国への移行を容易にする。最後に、モンゴルの北東

アジア経済統合に向けて、より有効と思われる分野を、利益に基づく優先度から以下に挙げたい。

- ・ 西部、中央、東部の3つの道路網によって、ロシア・中国との間に輸送交通を発展させる。
- ・ 中国・ロシアとの間で、輸送交通・貿易促進を進める。例えば、輸送費。
- ・ 北東アジア諸国からの投資によって、有機農業用地資源をベースにした輸出

志向型の食物・農業を開発する。

- ・ 北東アジア諸国との間に、二国間および三国間の自由貿易協定を結ぶ。
- ・ 半加工や完成されたエネルギー・鉱物製品を輸出する。石炭発電、再生可能エネルギー、その他。
- ・ 環境協力-気候変動基金、砂塵嵐、砂漠化対策、グリーンビジネス。

[英語原稿を ERINA にて翻訳]

<参考文献>

BATBAYAR Ts. 1994. Regional economic cooperation in Northeast Asia. The Mongolian Journal of International affairs.
 WU Kang, BATSAIKHAN U. and BULGANMURUN Ts. 2010. Energy Cooperation in Northeast Asia: The Role of Mongolia.
 United Nations ESCAP. 2017. Unlocking the potential for East and North East Asian regional economic cooperation and integration. United Nations publications.
 ITC (International trade Centre). 2017. Trade statistics of world countries
 Customs General Administration. 2017. Statistical data of foreign trade
 Bank of Mongolia. 2017. Foreign direct investment statistics of Mongolia
 National Statistical Office of Mongolia. 2017. Tourism statistical data. www.1212.mn
 National Statistical Office of Mongolia. 2017. Statistical yearbook -2016
 World Bank. 2017. World Development Indicators.